

第3回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA 兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター
令和5年7月26日

1 水稲の生育状況

6月下旬から7月中旬にかけての平均気温は平年よりやや高くなりました。気象庁の速報値より7月20日に梅雨空けとなり、降水量は7月上旬は降雨が続く日があったため多くなり、7月中旬以降はほとんどありませんでした。日照時間は6月下旬は平年以下でしたが7月上旬は平年並、7月中旬は平年以上となっています。

2 調査結果 (調査日7月26日)

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	一部の圃場で発生がありました。
紋枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	全調査圃場で確認されましたが、例年に比べ発生量が少なめでした。
ツマグロヨコバイ	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
カメムシ	一部の圃場で発生がありました。

3 これからの管理について

- ① 6月下旬以降では6月28日、7月1日、3日、9日がいもち病発生の準好適日となりました。今回の調査でも複数の圃場で発生が確認されており、穂いもちへの移行が心配されます。すでに葉いもちが発生している圃場では、穂いもちの予防のために、必ず出穂前防除を行ってください。
- ② 令和5年度病害虫発生予報 第3号(7月20日発表)では、ヒメトビウンカの発生がやや多い予想です。令和5年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウィルス保毒検定結果は佐用町 5.9%で高い保毒虫率となっているため、発病株を見つけた場合は、できるだけ早く株ごと抜き取り、感染拡大を防止してください。
- ③ 県下では斑点米カメムシ類が発生は平年並の予想となっています。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに実施しましょう。出穂間近の畦畔除草は、かえって圃場内へのカメムシ類の移動を促進するので避けて下さい。また、圃場内のヒエは早めに抜き取りましょう。
- ④ 乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、出穂後4週間(少なくとも3週間)は間断灌水による水管理を行いましょう。根の活力維持のため、極端な圃場の乾燥や水の溜めっぱなしに注意して下さい。